

第四回全國保育連合大會

第四回の全國保育連合大會は、去七月二十七、二十八日の兩日、九州地區福岡市において盛大に行われた、が來り會するものの二千を以てかぞえる、保育精神の大團結であつた。活潑な意見の發表、力ある討議、つゝいておこる嵐のような拍手、——九州の地は保育精神のオリンピス殿堂として、保育精神の大フェスティバルとして、湧くがごとく、燃えるが如き盛大の壯觀であつた。本誌は特にこの盛事の模様を、全國同志につたえ、又、あとにつくものにつたえるべく、内山、岡田の兩氏に乞うてその記錄を掲げた。(編集部)

テンント下の感想

全保連前事務局長 内山憲尙

るということであり、その一は幼稚園教諭の新免許法による資格単位をとる講習が夏休み中全國で開かれていることである。そこへ新らしい難點が突發した。

全保育大會も回を重ねて遼々第四回を迎えた。もうこゝまでくれば、存立の確定が實證せられ、永續が約束づけられたものである。希望の光は永久に、全國保育連合會の上にさし込んでくるであろう。今やこの重大な使命を帶びて第四回全國保育大會の幕は切つて落されんとしている。

東北から出掛けるとすると多大な費用を要す

以上の様な心配で、千人も集れば大盛會だ

新潟の第三回全國保育大會で次回開催地として九州地區が引き受けた以來、直ちに大會準備に着手して、一ヶ年の間、九州保育界は擧げて本年の大會にその全心全力を傾注されたのであつた。それにもかゝはらずいづれかの難點も察じられた。

それは朝鮮問題で、六月には九州地區に警戒警報が發せられて、燈火管制があり、ために、各地から「大會は大丈夫ですか」との問い合わせなどあり、某地區園長さんなどは眞面目に「九州までは汽車の切符を賣らないぞうですね」とさえ言つていられた。あぶないから中止しますという聲もところどころからきかされた。

らうと云うのが當事者一同の聲であつた。：忍大會準備會長の經過報告、倉橋惣三全運會

ところがこの心配は見事に裏切られた。七月に入ると續々と申し込みが舞い込み千人突破、七月中頃には千五百人、會の前には二千人と云う數字を示したのである。

豫定した講堂も間に合わず、どこの學校講堂でも千五百名以上を收容するところなく、市内劇場も八九百かの收容力しかない。終に學藝大學のグランドに大テント數張を以て會場とすることになり保育大會始まつて以來の新大會が持たれることになった。

千五百人分しか準備してなかつた、本會の要項印刷物や土産の用意や宿屋の手配などでも全くの大難、正にうれしい悲哀である。

昭和二十五年七月二十八日午前九時、二千

人餘の參集者はテントの下に充ち満んでいる。

おそく來た人は椅子が足りないと云う有り様昨日から心配された。その中でも天候はおさまつて、うす日に恵まれた涼しい天幕會場。正面には日の丸の旗と今回新たに制定された、全保連マークの大旗が、静かにゆれている。

岡田榮資九州連事務局長司會の下に、開會式は保育歌齊唱で始まつた。

内山憲尚全連事務局長の開式の辭、大野柔

讀、奥田副知事が上京中の知事に代つての祝辭に移つて民事部長のメッセージを坂元彦太郎副會長が代讀された。

調査官が代讀、厚生大臣の祝辭を網野智事務官が、文部大臣の祝辭を玉越三朗事務官が代讀、奥田副知事が上京中の知事に代つての祝辭、七十一歳の三好彌六福岡市長がユーモア

に満ちた祝辭を述べられた。

つづいて昨年大會からの繼續委員會の報告

1 規約改正委員會 青柳義智代
2 カリキュラム委員會 秋田美子

3 一元化調査參考報告 山下俊郎

4 を豫定の時間通り十時に終つて、高森豊九

州保連副會長の閉式の辭で開會式の幕を閉ぢた。

昭和二十五年七月二十八日午前九時、二千

人餘の參集者はテントの下に充ち満んでいる。

式後代議員を以て構成する總會に入る。會

長代理で坂元副會長議長となつて、各部の報

告がすんで、講事に移つた。

1、決算總算報告

鈴木とく財務部長の報告、一二三質問あつて可決

2、規約改正

規約改正委員會案について協議、會長を置くか置かぬかについて種々意見を交した。

9 時勢の推移に鑑み保育上留意すべき點

が、採決の結果數票の差で、會長は置かないことにし、委員制にした。新規約による委員の選出は二十團體について一名は可成り意見も出たが原案通り可決

第一日目の部會は二時から各部毎に開かれた。

1、第一分科會（幼兒文化）

1 幼兒の諸經驗獲得過程について承りたし（九州長崎）

2 幼兒のリズム教育について適切な指導如何（九州長崎）

3 室内の自由遊びの方法如何（九州佐賀）

4 保育要領の改訂、指示に関する件（九州大分）

5 幼稚園保育所に於ける宗教教育は如何にすべきか（福岡、岡山）

6 母の會P.T.A.の運営及び指導方法如何（東海、北陸）

7 知能検査を實施する場合、その種類、方法、効果について各縣の實情及び御意見を承りたい（東海）

8 健康保育と給食實施の普及徹底について（東海）

- 如何（中國、岡山）
- 10 保育要領の具體案作成について（四國
香川）
- 11 優秀な幼児向視覺教材の作成普及に關する件（關西、奈良）
- 12 幼児の環境整備につき特に留意すべき點について（關西、兵庫）
- 13 問題の子供の適切な取扱いについて（關西、京都）
- 14 保育効果の評價基準について（關西、滋賀）
- 15 幼児に科學心を啓培する具體的方策について（四國、徳島）
- 16 幼児の健康教育を如何にすべきかについて（四國、高知、北陸、石川）
- 17 幼児にすゝめるよい遊びの編纂方要望について（四國、愛媛）
- 18 幼稚園保育所と小學校低學年との具體的連繫方法について（東京、福岡、高知）
- 19 保育日を制定せられたし（關東、東京）
- 20 カリキュラムの構成に對し國外の生活
- 21 幼稚園の給食の實際について承りたし（北陸、石川）
- 22 指導を重視せられたし（北陸、石川）
- 才能教育を保育にとり入れることの可否（東海、靜岡）

- 23 緊に於ける自由と抑壓の問題に就いて 同いたし（關東、神奈川）
- 1 A第一部（幼稚園）
- 1 各都道府縣教育委員會に、専任の幼稚園指導主事を必ず置かれた（北陸、石川、關西、京）
- 2 地方に於ける兒童行政のセクトを排除し適當な連絡機關を結成した（北陸、石川）
- 3 幼稚園の財政的基礎を確立する爲、國庫及び府縣よりの補助金交付について、（東京、香川、廣島）
- 4 幼稚園教諭養成機關を各府縣に設置する件（東海、香川）
- 5 教育職員免許法による勤務年數の計算には保育所の勤務も幼稚園同様となすこと（中國、廣島）
- 6 保育所保母の身分保障について（島根）
- 7 保育所保母の身分保障について（島根、茨城、福岡）
- 8 私立保育所の法人取扱いについて（滋賀、高知）
- 9 保育所關係の樂器保育用品免稅の件（東海地區、九州）
- 10 私立保育施設に保険組合結成促進の件（東海、九州）
- 11 保育所えの對象兒を適確に措置された（關東、神奈川）
- 12 保育所保母養成機關を各府縣に設置する件（東海）
- 13 保育所に對して國庫補助の道を講ぜられた（關東、神奈川）

- 1 B 第二部（保育所）
- 1 児童福祉審議會委員中に必ず公私立保育所の代表を加えられたい（石川）
- 2 保育所に保健婦を配置する件（石川）
- 3 私立の兒童福祉施設に對して、公的補助の道を開くことについて（四國、高知）
- 4 兒童福祉施設最低基準一部改訂並に延期方願望に關する件（東京、福岡、愛媛）
- 5 現下幼児保育の重要性に鑑み縣兒童課並びに郡市駐在の専任指導主事又は保母の設置に關する件（四國、徳島）
- 6 平衡交付金に保育所の經費を明らかにすること（中國、島根）
- 7 第二日午前中は部會が持たれた。各部會の構成は次の通りである。

第一分科會（文化全般）

〔部長〕宮内 孝 〔副〕安康兼慶
友田靜惠

〔第二分科會（制度組織）〕第一部會（幼稚園）

〔部長〕鈴木信政 〔副〕鳥井暢超

狩野みつ

第二部會（保育園）

〔部長〕齋藤久吉 〔副〕小坂文雄

江口まさ

各部會が活潑な議論が展開され、午前中で終了した。この間各府縣から新規約による委員が選出されて、常任委員會を開催する。

常任委員中から委員長と副委員長を選び

〔委員長〕小川正通

〔副委員長〕鈴木信政 秋田美子

と決定した。

尙、事務局は東京都に設置することになりて事務局長は小川正通と決定した。

午後一時から大會と總會が開かれ、大會議案について審議した。
1 保育者のアメリカ派遣と内地留學實施の件（關西地區奈良）一同賛成可決
2 全國保育大會を隔年を開催するの件（關西京都）は高橋提案説明者の努力があつた

が、當分一年說に賛成が多く、毎年開催となる。

3 幼稚園教諭と保育所保母の資格を共通する事件（關東、東京、關西三重）は一同賛成要望切なるものあり、新事務局に於て善處方を一任して可決

續いて各委員會の報告あり全部承認した。

A班 雲仙（長崎縣國立公園）
B班 阿蘇（熊本縣國立公園）
C班 別府（大分縣觀光溫泉鄉）

×

第四回保育大會は、二千名以上の參加を得て豫想以上の盛會を以て終った。

本大會のよろこびを更にたのしいレクリエーションの見學が左の三班に分れて行われた。

1 A班 雲仙（長崎縣國立公園）

2 B班 阿蘇（熊本縣國立公園）

3 C班 別府（大分縣觀光溫泉鄉）

本大會の實際の運営に當られた、九州の各連事務局長の式辭に、福岡縣知事、福岡市長の挨拶あり、

續いて、各部會の報告あり、宣言決議文の承認を終り、總會の總意に於て前會長倉橋惣三先生の顧問推舉を萬賀一致承認した。

參會者代表として、福島若松幼稚園の玉川園長が卒直で熱のこもつた謝辭に老市長が登壇して握手をすると云う様な劇的なシーンを現わして、感激的氣分の裡に、保育歌は静かに流れ、青柳義智代事局次長の閉會の辭に

走り廻り駆け廻らなければならぬ。

全く御苦勞様である。料理人はあせをなが

して料理を作つて、人にたべさせて、自分は

たべる間もないのである。お膳立てをしてい

ただいた方々に重ねて満腹の感謝と敬意とを捧げる。

大會準備を願みて

九州保連事務局長 岡田榮資